

社説

經濟社會の危機

近來我國の貿易は平均を失して輸入常に輸出に超過し昨年其額五千三百萬圓に達し本年は十月までで既に四千六百萬圓に上り英國などの如く外國に巨額の資本を放し其利率として内國に正貨の流入を見る國柄に於ては連年の輸入超過も敢て怪むに足らずと雖も我國には斯る事情の存せざるに拘はらず二年間に一億圓内外の輸入超過を呈したるは兎に角に經濟社會の變態にして其原因は政府が財政上の都合より債金の流用したる一事に在り認めざるを得ず若し兌換制度の作用が自然の成行に一任せられたらんに正貨は早く既に海外に流出して永く輸入超過の勢を維持する能はざる筈なるに政府が債金を流用して爲換作用に依り輸入品の代金を仕拂ひたるを以て内國の正貨は毫も流出せずして終に斯る變態を招くに至りしものなり然れども債金なり公債の賣却代金なり本來無難なるものに非ざれば永く之に依頼して兌換券の増發を維持するは到底望む能はざる所なるのみならず増發したるだけの兌換券は結局正貨の取付を促がすに至るも必然なれば日本銀行なるものは此際大に警戒の方針を取り他日金融上の變動に備ふ可しと我輩が既に屢々論じたる所にして一方には政府に向て増税を斷行して財政の基礎を鞏固にす可きものと説くと共に一方には右の懸念を以て日本銀行の反省を求めたる次第なり然るに銀行の當局者は從來の仕來りを頼に變更するに忍びず兎にも角にも目下の實際に發行餘力のあるを以て兌換券を増發したる其上に金融市場が果して制限外兌換券の發行を要するまでに切迫したるや否やも詳にせざるに七月以來その發行を繼續して今日尙ほ未だ回収の見込みなしと云ふ一旦、通貨膨脹して物價を騰貴せしめたる以上は銀行の預金も自から其數を減じ銀行に資金を借入るものは多々す借入るを以て其貸付資本の次第に欠乏するは必然の成行にして如何に兌換券を増發して市場の需要に應ずるも其増發したる兌換券は騰貴したる物品の代價となりて市場に出で唯買買の媒介たるのみにして遂に銀行の庫中に歸來するものとなく其結果はますます物價の騰貴を招きて金融の逼促を激成するに過ぎず火を以て火を消さんとすの類にして殆んど無限なる可し或は制限外發行に依り兌換券増發の機軸を握ひつゝある中に輸出貿易好況を呈して輸出超過の實を収むるか又は外資の輸入を見て金融市場の急を緩和するもあらんは此上もなほ好都合ならんやれども實情を見るに今後回収し得べき債金并に公債の賣却代金も甚だ多からざるのみならず政府に於ても既に爲換の取組を中止したる由なれば日本銀行の正貨準備は自から外國貿易の關係に依り増減するに至る可し而して今後輸入超過の勢が何時まで持續し得るかや實情を知る可らずと雖も普通の順序より云へば兌換券の發行は爲換の收縮を致し物價平準の體に近づめて止むるの途を閉せざる可らず殊に今年等の如く爲換の爲めに兌換券の發行を抑制し輸入増加するを以て兌換券の輸入減少して兌換券の輸入減少し

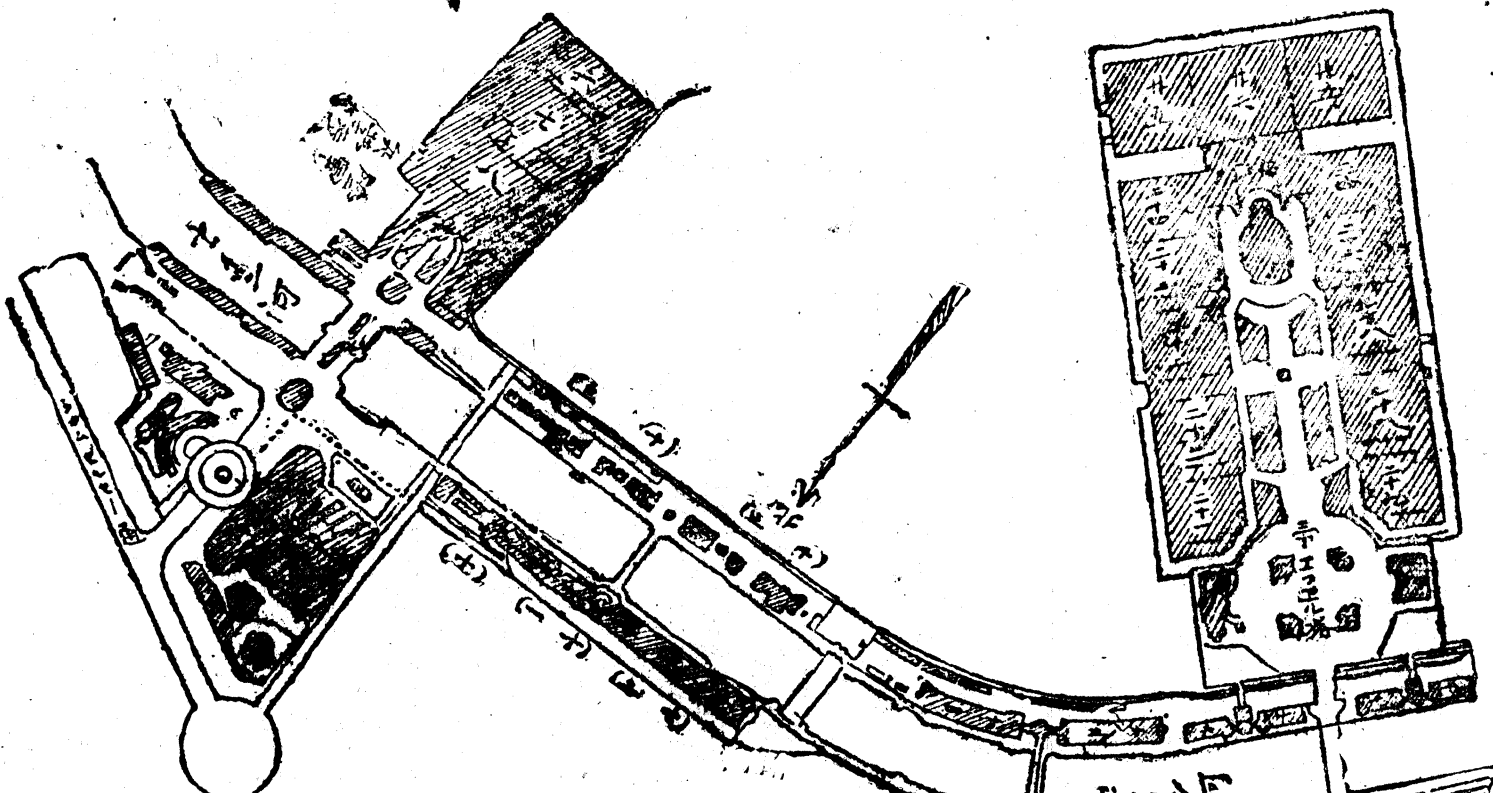
増加の傾ければ結局生産力を増進するの効を見るものとならんやれども既に輸入の超過を招きたる以上は必ず正貨の流出を促がさざるを得ず正貨の流出が憂ふるに足らず其流出は取りも直さず經濟社會の變態を呈正する所以なれども一方に三千萬圓内外の制限外發行を見たる其上に正貨準備次第に減少していよいよ其發行を増加するに至るときは日本銀行は如何なる方針に出づ可きや世論に流布する保證準備の擴張の如き銀行の發行餘力を増すの一策には相違なれども其結果はますます正貨の流出を促して兌換制度の基礎を薄弱ならしむるに過ぎず現に明治二十四年の春季に於て外國貿易不平均の爲めに正貨準備は五千七百萬圓より四千三百萬圓に減少し當局者をして大に疑懼の念を懷かしめたる例もあれど我々が保證準備を擴張するが如き策の得たるものに非ず兌換制度の安全を謀らんとするに金利を引上げて通貨を收縮するは到底免かる可らざるの數にして經濟社會必然の成行なれども左なきに物價騰貴の爲めに資金の欠乏を訴ふる金融市場は之が爲めに一層の困難を加へ如何なる事變を見るやも知らず我輩が日本銀行に警戒の方針に出でんことを望みたるは斯る場合に際し其發行餘力を盡して無事に難關を通過せしめんとの趣旨に外ならずしかども今日の如く巨額の制限外發行を見て其餘力不十分とあれば今後の金融市場に對して殆んど無力と云はざる可らず銀行が自から術りて兌換制度の安全を保たんとすれば金融市場の急を如何ともし難はす其急を救はんとして兌換券の増發は殆んど無限なくして結局兌換制度の基礎を薄弱ならしめざるを得ず銀行の苦境は此一點にして經濟社會の危機も亦茲に在りと云ふ可し或は目下經濟社會の變態を以て單に政府の責に歸する者ありれども我輩の所見を以てすれば日本銀行が戦後所屬應的方針を唱へて安りに金利を引下げ投機事業の勃興を促しなから其後進も警戒の方針を取らざりし一事も亦有力の原因にして今後の困難も畢竟その失業の結果と云はざる可らず當局者は如何にして此難關に處せんとするや世人の大に注目す可き所なり

電話料直上の理由

電話料直上の理由 電話料直上は事業公債を以て支出されたるものなれば最初電話料を決定する際、其収入により架設費に對する五分の利子を拂ひ一方には一切の維持費を支拂し此事業に對しては年々國庫の補足と仰がざる筈にて算を編成し一年の使用料を三十五圓と定めたる次第なるに其後名古屋、堺等の地方にも電話を架設し殊に近年物價騰貴の結果は到底既定の料金にては五分の利子を支拂ふを得ざるに付通日直上を決定するに至りたるものにして若し毎年に經濟を獨立せば新種の直上を要せざるべしと雖も近頃開始したる地方は收支相償はざるものと加ふるに今後新に開始すべき土地少ならずして是等は東京、大阪等の収入によりて補助せざるべからざるにより是等は計費の上當初の計畫通り利子支拂と維持費を支拂する材料を自安とし直上を決定するに至りたるものなりと云ふ又大阪東京間電話開通の際には一週(五分間)の料金を與へて定むべきや未定なれども五分間に付し得べき利益を普通電話料に算入し見込みなりと云ふ

巴里博覽會 (二)

來る三十三年四月十五日より巴里に於て開設する博覽會に就ては度々本紙に記載する所あり勿論我國も十分力を入れて出品の手筈にて政府も民間も其準備最中なるは世人の知る所なる如し抑今回の博覽會は西洋紀元千九百年を期して開會するものにて其主意とする所過る千八百零一年以來百年間に於ける人文の發達を比較表明せんとする者にて從來の大博覽會とは頗



其色を異にし西曆第十九世紀の總動店、卸を全てたるものなり或西人の説に現今我々人間が欠く可らざる文明の要具として尊重し得べき蒸氣電氣の仕掛其他百餘の利器は大抵本世紀中に編成を成し然らざれば本世紀に入りて始めて長足の進歩を成したるものなり我十九世紀人文の發達は以前十八世紀を引揚めたるものより遙に進んでたるものなりといへり如何にも其通に達し左れば我々十九世紀の終に生れたる者が

其一世紀間に成敗せしに優れるは之を喜びは人世無比の快樂に其先導者を以て自らも歸朝せる人の談話に於てパリ市中縱横にたりといふパリの

地下鐵道を開通するもふべき計畫なれども實したる上は必ず之を唯其壯麗に否とせし右に掲ぐるは會場のりて大に急考ともなる書て巴里に足を入れなつくべし 明治二十二年